

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

僕たちは知らず知らずのうちにたくさんの暗黙の前提を共有しています。だからこそこの世の中はスムーズに運行します。(1) ジャンケンというゲームがあります。グー

はチョキに勝ち、チョキはパーに勝ち、パーはグーに勝つ。そういうルールをお互いにわかっているからこそ、僕たちは何の問題もなくジャンケンをすることができなのです。

(2) 、仮にグーはパーに勝ち、パーはチョキに勝ち、チョキはグーに勝つというルールのジャンケンがあったとします。このようなジャンケンを「逆転ジャンケン」と名付けておきますが、この「逆転ジャンケン」であっても参加する全員がそのルールを前提として身につけてさえいれば何の問題もなくゲームは成立してしまうのです。(3) 、

ここで皆さんに考えてほしいのは「普通のジャンケン」と「逆転ジャンケン」のどちらが正しいかということです。確かに僕たちは「普通のジャンケン」に慣れ親しんでいます。でも「逆転ジャンケン」は間違いだとは言えません。(4) 「逆転ジャンケン」はそ

ういうルールのゲームであるということに過ぎないのですから。僕たちはたまたま「普通のジャンケン」を前提としている世界に生きている。(5) 、僕たちはたまたま「逆

転ジャンケン」を前提としていない世界に生きている。ただそれだけのことです。つまり、ルールはそれが前提として共有されているからルールとして機能しているに過ぎません。これを忘れてはいけません。

ア ところが イ 逆に言えば ウ さて エ たたとえば オ なぜなら



2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次の力く「」から選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

(6) 「戦争を知らない子供たち」というタイトルの歌が流行した。一九七〇年に発表された歌である。この歌のタイトルの意味することが、現代の若者たちに理解できているだろうか。「戦争を知らない子供たち」の対極にはその当時「戦争を知っている大人たち」がいたのである。ここには二つの世代の間の価値観の相違や衝突などが含まれていたのだ。ところが、幸か不幸か、21世紀の日本の大人の大半は戦争を知らない。すなわち(7)大人も子供も戦争を知らないのである。現代の若者にこの歌のタイトルはどのように響くのであろうか。(8)『書を捨てよ、町へ出よう』というタイトルの本がある。一九六七年に詩人・劇作家として知られる寺山修司が発表した本であり、一九七一年には同名の映画も公開された。こちらのタイトルには「書ばかり読んで町へ出よう」としない若者の存在が暗示されている。「若者の読書はなれ」などと言われる昨今、こちらのタイトルもその真意が理解されなさそうである。歌のタイトル、本のタイトル、映画のタイトル。(9) タイトルというのは作品の名前である。そもそも、ものの名前は、あるものと別のものを区別するために機能する。洗濯機という名はその物体が冷蔵庫とは別の存在であることを示し、ネコという名はその動物がトラと別の存在であることを示す。もちろんタイトルも名前である以上、ある作品と別の作品とを区別する機能を持つ。(10) それとは別にタイトルというものが、ある時代の空気を吸い取って、作品同士の区別に終わらない独特の意味を帯びてしまっていることに私は興味をそそられている。

カ 今や      キ かつて      ク いずれにせよ      ケ また      コ だが